

6、26年度 こども食堂活動における取り組みについて

体験格差をなくすエンターテイメント等への取り組み(247文字)

高価な図鑑や最新の学習マンガ、プロによる読み聞かせは、一部の子どもに限られた体験になりがちです。これらを公共性の高い自治会館で無償提供することで、誰もが質の高い知識と文化に触れる機会を提供します。また、単なる閲覧に留まらず、自分の押し本を大人に紹介し、自作のPOPが棚を彩る「自己表現の場」を創出。これにより、成功体験や承認欲求を満たす機会を平等に提供します。食事という日常に、プロの技術や多様な価値観との出会いを組み込むことで、地域全体で子どもたちの「心の格差」をなくす豊かな土壌を育みます。

豊かな食体験への取り組み(233文字)

地域の旬の食材を取り入れた献立を通じ、季節の移ろいを感じる機会を創出。配膳や片付けを多世代で共に行うことで、食を通じた作法や感謝の心を自然に育みます。また、地域の名人を招いた「隠し味の秘密」などのミニ講話を実施し、食への知的好奇心を刺激します。家庭では孤食になりがちな子どもたちにとって、大きな食卓を囲む賑やかさと、地域の大人が見守る安心感の中で摂る食事は、自己肯定感を高める「心の栄養」となります。誰もが「誰かと食べる喜び」を享受できる質の高い食環境を保障します。

持続可能な運営への取り組み(208文字)

本事業の持続可能性を担保するため、助成金に依存しすぎない体制を構築します。具体的には、本事業のファンとなった保護者や地域住民を「運営サポーター」として組織化し、調理や選書、見守りを分担するボランティア体制を整えます。また、地域企業や農家と連携し、規格外野菜の提供を受けることで食材コストを抑えつつ、地産地消を推進します。「自分たちの居場所」という当事者意識を地域全体で共有し、次世代へつなぐ自走型モデルを目指します。

安心・安全な場づくりへの取り組み(290文字)

物理的な安全に加え、子どもの尊厳を守る「ハラスメントのない空間」を最優先事項に掲げます。

運営スタッフや地域ボランティアに対して、事前に研修などを実施し、威圧的な言動や不適切な身体接触、特定の児童への偏愛を未然に防ぐ体制を敷きます。また、常に複数人の大人が見守る「オープンスペースでの活動」を徹底し、密室化によるリスクを排除します。子どもたちが「嫌な

ことは嫌と言える」心理的安全性を確保するため、意見箱の設置やスタッフへの定期的な研修を実施。自治会館が、家庭や学校の悩みも安心して打ち明けられる「権利が守られる場」として機能するよう、地域一体となって倫理観の高い見守りを継続します。

7、26年度申請事業の概要

今回助成金を活用する事業名

本とマンガで繋がる！多世代交流「ほのぼのブックカフェ」運営事業

今回助成金を活用するに実行する事業計画(795文字)

1. 事業目的

地域の自治会館を拠点に、食と本を融合させた「居場所づくり」を目指します。月に2回こども食堂を開催しますが、通常開催のなかで本に関するイベントを実施します。

「静」の居場所の創出：活発に遊ぶ時間だけでなく、読書を通じて自分自身と向き合う「静」の時間を提供し、子どもたちの心の安定と集中力を養います。

孤独の解消と多世代交流：子どもと大人が「本」という共通の話題で対等に話すことで、地域全体で子どもを見守る「顔の見える関係」を再構築します。

2. 事業内容

アップデートリクエスト型ライブラリー：子どもたちが「今読みたい本」を投票する「選書会議」を定期開催。主体性を育みます。(2か月に1回実施)

「私の推し本」紹介会：高齢者には「子どもの頃の思い出の一冊」、子どもには「今ハマっている本」を紹介してもらい、相互理解を深める場にします。(月に1回実施)

プロの読み聞かせ：本が苦手な子も物語の世界に引き込みます。(長期休み時に開催、年2回)

リラックス空間の演出：クッションをおいてのんびり本を読めるスペースを確保。また、今週のイチオシを飾る面展示を行い、思わず本を手に取りたくなる仕掛けを作ります。

【助成金の具体的な用途】

図書購入費 1,500円×100冊 150,000円 児童書、学習マンガ(歴史・科学等)、人気コミックをバランスよく配置。シリーズ物は中古セット購入で冊数を確保。

備品購入費 4,000円 × 10個 40,000円 厚手の高反発フロアクッション。清掃しやすい撥水素材を選定。

印刷製本費 一式 40,000円
地域配布用リーフレット(1,000部) お気に入り本記録カード(読書通帳)

講師謝金 40,000円 プロの読み聞かせを招いた特別イベントの謝礼 2回分

消耗品費 30,000円 文房具類(画用紙、ペン各種、シールなど1年間分)POPや本の紹介カードを作成。